



臨時増刊号
2016.12.17

SEA NEWS



- ① … ご挨拶 公益財団法人 埼玉県サッカー協会 会長 横山 謙三
- ② … 埼玉県サッカー協会70周年にあたって 公益財団法人 埼玉県サッカー協会 名誉会長 相川 宗一
- ③ … 埼玉県サッカー協会70周年に寄せて 埼玉県サッカー協会 元会長 松本 暁司
- ④ … 「SFAの現状とこれから」～横山謙三会長インタビュー～
- ⑤ … 「SFAの現状とこれから」～横山謙三会長インタビュー～
- ⑥ … 2015/16年埼玉県サッカー Pick up 1
- ⑦ … 2015/16年埼玉県サッカー Pick up 2
- ⑧ … 栄光の歴史～埼玉県高校サッカー～ 結びに代えて 埼玉県サッカー協会専務理事 坂庭 泉

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

ご挨拶

～埼玉県サッカー協会設立70周年記念パーティーに向けて～

公益財団法人 埼玉県サッカー協会
会長 横山 謙三



埼玉県サッカー協会(SFA)は、今年70周年を迎えました。

この記念すべき70年という節目の年を迎えることができましたのも、これまで様々な形でSFAを支えてくださった御関係の皆さまのおかげであり、厚く御礼申し上げます。

SFAは、1946年(昭和21年)9月1日、埼玉県蹴球聯盟(しゅうきゅうれんめい)として、戦後わずか1年、まだ混乱の最中に誕生しました。「埼玉県でサッカーを盛んにしたい」という理想を掲げて組織を立ち上げた先人たちの情熱と努力に敬意を表したいと思います。

それから70年、先人たちの意思を受け継ぎ、SFAは埼玉県でのサッカーの普及と発展のために邁進してきました。その間お力添えくださったすべての皆様に、改めて心から感謝申し上げます。

埼玉には先人たちが築いてきた数々の輝かしい歴史があります。設立から約半世紀に渡る高校サッカーの隆盛期、中でも1951年(昭和26年)の浦和高校全国制覇を皮切りに、その後の30年の間に埼玉県勢が12回優勝するという大記録を成し遂げました。当時は「埼玉を制する者は全国を制する」と言われたものです。

その後も普及と育成に地道に取り組み、今やSFAは登録数(チーム、個人)、指導者数、審判員数で全国トップクラスを誇る組織へと成長しました。中でも女子選手層の伸びと活動の活発化には目を見張るものがあります。また、全国に先駆けて導入した第4種リーグや指導者養成(インターンシップ制度)なども、多くの方々に支えられて順調に定着しています。

今、埼玉県は日本を代表するJクラブ2チームを擁するとともに、世界有数の埼玉スタジアム2002を有するサッカー県として、国内外に広く認知されています。先人たちが目指した「埼玉県でサッカーを盛んにしたい」という思いは、よい形で実を結んでいます。これから10年、20年、30年、そして100年先においてもSFAはJFAの理念をリードする都道府県協会として使命を果たすために、新しい価値を創造し、発信し続けます。

そして「活気と秩序と潤いのある社会づくり、自立できる人間づくりに貢献し、地域コミュニティの再生を目指す」というSFAミッションの具現化に向けて、引き続き健全な事業運営に着実に取り組み、さらなる成長を目指してまいります。

今後ともなお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

埼玉県サッカー協会 70周年にあたって

公益財団法人 埼玉県サッカー協会
名誉会長 相川 宗一



埼玉県サッカー協会設立70周年を迎え、誠におめでとうございます。70周年に至るまでの諸先輩を始め多くの皆様のご尽力に対し、心から感謝申し上げます。

この70年の間には東京オリンピックサッカー会場として、日本初のサッカー専用競技場である「大宮サッカー場（現 NACK 5 スタジアム大宮）」が建設され、「浦和駒場競技場（現浦和駒場スタジアム）」そして2002年サッカーワールドカップ会場として東洋一を誇るサッカー専用の「埼玉スタジアム2002」が造られました。この競技場は当初、4万人規模のスタジアムとして予定されていましたが、6万人を収容して決勝戦の会場として名乗りを上げるため、また少しでも多くの皆さんに世界最高峰のサッカーを見ていただけるように、当時の協会役員の皆さんが、連日浦和駅頭に立ち署名を集めて実ったものです。熱意と結束がいかに大切かを物語っていると思います。

平成18年に任意団体であった「埼玉県サッカー協会」は『財団法人埼玉県サッカー協会』となりました。この認可を受けるに当たっては大変な努力と時間が必要でした。当時の役員の皆様には心からの敬意を払いたいと思います。

残念なのは、埼玉サッカーの華々しい歴史を作り上げ、多くの日本を代表する選手、指導者、審判員を輩出した高校サッカーの成績が芳しくないことです。県立浦和高校、浦和市立高校（現・さいたま市立浦和高校）、県立浦和西高校、浦和市立南高校（現・さいたま市立浦和南高校）、武南高校と続き、「埼玉を制する者は全国を制す」と言わしめた時代を、単なる歴史の一部として語り継ぐのではなく、再び隆盛を誇れるよう頑張っていたきたいと切に願っています。

現在、ワールドカップアジア最終予選日本代表には、川島永嗣選手に次いで原口元気選手が選ばれ活躍しています。二人に続く選手が我が埼玉県から多数輩出されるように願っています。それには、指導者の皆さんの今まで以上の研鑽に加え、サッカーの環境を整える事が必要でしょう。何より大切なことはサッカーに携わる様々な立場の方々が、純粹にサッカーを愛し、互いの立場を尊重して高めあってゆくことが大切ではないかと思います。

埼玉県サッカー協会が益々発展し、日本のサッカーをリードしていくことを大いに期待しています。



NACK5 スタジアム大宮



埼玉スタジアム2002



2005年財団法人埼玉県サッカー協会設立

埼玉県サッカー協会 70周年に寄せて

埼玉県サッカー協会
元会長 松本 暁司



埼玉県サッカー協会、70周年おめでとうございます。

私が理事長、会長時代は、事務所を現在の北浦和に置くことから始まり、東松山リコーグラウンドをお借りして全国で初めて県協会で人工芝グラウンドを持つことができ、そして協会の財団法人化と様々なことがありました。

特にグラウンドを持つことができましたので、もう少しレセンで指導をしたかった、いい選手に夢をかけてみたかったというのが本音です。

振り返ってみれば、長く協会に関わって来ましたが、いつの時代もグラウンド整備という「ハード」面と、選手育成という「ソフト」面の両面が課題であり、これらの課題解消に取り組んできたような気がします。

特に歴代の関係者の中でも県の体育課長、協会では副会長にもなった池田久先生は豪快でした。例えば、日本初のサッカー専用球技場となった大宮公園サッカー場（現、NACK5スタジアム大宮）は池田さんが計画し、JFAの理事だった宮崎一弥さん（元立教大学サッカー部監督）、そして長く協会の会長をされた福永健司さん（元衆議院議員）がサポートしてできたものです。そこで東京オリンピック、埼玉国体、ワールドユースという大会が開催されました。高校サッカーの隆盛と共に県内におけるサッカー人口は増えていきましたが、なかなか良いグラウンドを作るのは難しく、また借りるのも大変な時代でした。そんな中でも多くの選手たちを輩出することができ、また日本代表選手も多く出たことは大きな喜びです。

この70年の中で埼玉から輩出した一番の選手は、永井良和さん（浦和南高校→古河電工）だと思います。天性の俊敏性、スピード、ボールコントロールの上手さ、そして小柄でしたがジャンプ力。高校時代に指導していましたが、他県の指導者から「ああいう選手が出てくれば」という声をよく耳にしました。当時の日本代表の守備力がもう少し高ければ、彼はもっと活躍していたと思うのです。永井さんを超越するような選手が埼玉から出てきてほしいと熱望しています。

そしてもう一つ、プロもアマチュアもサッカーそのものの質を上げてほしいものです。これまでもこれからも、県民の皆さんはインテリジェンスのあるサッカーを見たいと思っているのではないのでしょうか。そのためにも個々の選手をしっかりと育ててほしいものです。

引き続き、埼玉のサッカーをよろしくお願い申し上げます。



東松山リコーグラウンド



昭和44年 浦和南高校史上初の三冠獲得



ベッケンバウアーと永井良和選手

「SFAの現状とこれから」

～横山謙三会長インタビュー～

改めて、埼玉のサッカーの今をどうとらえていますか。

横山 現在、県内には1,691チーム、60,056名（2016年3月末調べ）もの登録者がいて、指導者5,992名、審判20,212名の数を見ても全国のトップクラスであるということは、間違いのないでしょう。いきなりこのように多くの皆さんに登録されるようになったわけではなく、諸先輩の皆さんがやって来られたことを継続してきた成果だと思えます。また、この数字に埼玉のサッカーへの意気込みが見て取れると思うのです。

Jリーグの開幕など、様々な環境の変化もありました。

横山 確かに皆さんのサッカーを取り巻く環境は変わりました。そこには皆さんの努力があって維持されているもの、進化しているものがあります。特に登録については、少子化にも関わらず、全体の数字が大きく落ち込むことなく維持できています。埼玉のサッカーに携わっている皆さんが一生懸命やったださっているからこそだと思っています。

もう一つはJFAを中心としてサッカー界全体の取り組みが評価されているからというのもあるでしょう。組織として、しっかり運営されている競技団体というのは、多くありません。合わせて、日本代表がコンスタントにワールドカップへ出場できるようになりました。この強化策もまだまだ成功とまではいきませんが、ある程度の結果をもたらしており、国内のサッカー人気を盛り上げる大きな力になっていることは間違いのないでしょう。



強化という面では、埼玉の現状をどのようにとらえていますか。

横山 都道府県での活動というのは、すべては日本代表の強化に繋がっています。基本的に、冒頭に触れた登録してくださっている皆さんの登録費によってJFAは支えられているのです。中でもSFAは大きな力になっていると思います。しかし、現在の代表選手の数を見ると、もっと埼玉の選手が入ってほしいですね。

これらを踏まえて「これから」目指すところはどこになるのでしょうか。

横山 一番は継続です。そこにサッカーそのものの質の向上を求めたいと思います。現在「埼玉県サッカー協会はフェアプレー日本一を目指します」と掲げています。引き続き、フェアプレーを強調しながら、「個」の強さも求めていきたいと思っています。いい選手ほどフェアプレーをするんだということを伝えていきたいと思っています。そもそもプロフェッショナルの規範は何か？それはそのスポーツの手本となるということです。アマチュアの選手であっても、子供たちのお手本になろうというのをSFAは目指していきたいと考えています。全国の皆さんから「埼玉は強いだけじゃない」と言ってもらえるようになりたいです。

ただ、そこには子供たちをいい方向に導く、優れた指導者が必要です。選手たちが正しい判断をできるようにするにはどうすればいいのか。そのための取り組みを各委員会から提案してほしいと思っています。やはり我々が真剣に考え、決断していくことが進歩につながると思います。



SFAはフェアプレー日本一を目指しています。

やはり指導者育成が急務でしょうか。

横山 大学生にはインターンシップ制度を導入してC級ライセンスを取得してもらうなどの取り組みはしていますが、やはり4種年代の指導者への期待は大きいですね。子供の発想を大事にする指導ができていますか。よく「普及」「育成」「強化」を三つのサイクルとして紹介されますが、私は「育成」と「強化」はイコールだと思っています。だから「育成」と「強化」で教えていることが違っているのはおかしいのです。同じサッカーなのですから。

これはどういうことかという、「育成」と言われる段階から“大人のサッカー”を教えていかなければならないのです。だからといって、ストレートに教えるのではなく咀嚼して、目の前の子の発育発達を考えて伝えられる指導者が育ってこないといけないのです。これは我々が育てるものではなく、育ってくるものだと思っています。

これはどういうことかという、「育成」と言われる段階から“大人のサッカー”を教えていかなければならないのです。だからといって、ストレートに教えるのではなく咀嚼して、目の前の子の発育発達を考えて伝えられる指導者が育ってこないといけないのです。これは我々が育てるものではなく、育ってくるものだと思っています。

そこで、やはり我々が伝えるのは「基本」ではないかと思うのです。例えば、ドイツです。常に指導の考え方は、「基本」との繋がりの中から考えられてきています。どの年代を見ても、「基本」をないがしろにするような指導はされていません。この考えは参考になると思っています。サッカーを強化するためにはいろいろな要素がありますが、埼玉においてはすべてにおいて「基本」から考えていくほうが近道なのではないかと考えるのです。

だいたい、「基本」を知らないと指導者ではないでしょう。指導者同士が「基本」を共有できないと、いい選手は出てこないのです。現状を見ると、指導者の多くの方々は「基本」ではなく「流行」を追いかけているのではないのでしょうか。どの年代においても、真似をするのではなく「ここが基本とのつながりである」ということを伝えられるかどうかです。その中でも、子供たちが最初に出会うだろう、4種の指導者が本当に重要なのです。



インターンシップ制度、始動

～中学校の指導者不足解消に向けて～

今年度の大きな取り組みの一つとして掲げてきた。国産大学生を中学校の指導現場に派遣する「インターンシップ制度」が大きな一歩を踏み出し始めた。県教育委員会、関係大学と連携しての「平成21年度大学生によるスポーツインターンシップ」に向けて、9月17日から白岡、平成国際大学に設けての練習試合が開催された。

講師は西川誠太郎サッカー部監督。参加したのは23人だったが、体調不良もあり、結果的には平成国際大学から14人、埼玉立大学から5人、そして立教大学から3人の22人が無事コースを終了した。

同じ年代ということもあり、無駄なくスムーズに運営されたことが印象的だった。参加者からも「楽しかった」という声が多く、今後と通った観戦からサッカーを見ることもでき、新鮮だったようだ。再び行いたい。

（取材協力：白岡市立白岡中学校、指導者：西川誠太郎監督）



話は尽きませんが、最後に具体的にSFAとしての「これから」をお願いします。

横山 大きく言えば、委員会の活性化と競技運営力の向上の2つを掲げたいと思います。特にSFAミッションの具現化をすべく、特に各委員会が失敗を恐れず、独自性を持って進んでほしいと願っています。もっと議論をしてほしいですし、具体的なシミュレーションをしながら方向性を示してほしいものです。

技術は始めています。大学生のインターンシップ制度はやり続けることが重要であり、4種リーグは、全国に広まりました。どちらも日本のサッカーのためにやっていることです。

競技運営力は、大会そのものの質の向上です。大会に関わる役員、審判の意識もそうですが、観客の皆さんにも「フェアプレー」をお願いしたいと思っています。

いずれにせよ、「埼玉」としての独自性を示し、行動することが「SFAのこれから」と言えるでしょう。引き続き、よろしく願います。

（聞き手、広報委員長 荒川裕治）



10年目を迎えた第4種サッカーリーグ選手権大会



クラマー氏と横山会長

SFA ミッション 公益財団法人 埼玉県サッカー協会

2015/16年 埼玉県サッカー Pick up

浦和レッドダイヤモンズ



ルヴァン杯優勝

写真提供: ©URAWA REDS



大宮アルディージャ

江坂選手(左)

写真提供: 大宮アルディージャ

彩の国カップ



彩の国カップ決勝 東京国際大学 vs FC TIU

第4種選手権大会



第9回第4種選手権大会決勝 レジスタFC vs プエブラフットボールクラブジュニア



第39回全日本少年サッカー大会でレジスタFCが優勝

キッズ



JFA キッズフェスティバル

シニア



シニアフェスタ

栄光の歴史

～高校サッカー～



昭和31年(1956) 選手権2連覇 浦和高校



昭和32年(1957) 選手権優勝 浦和西高校



昭和48年(1973) 4度目の選手権優勝 浦和市立高校



昭和57年(1982) 選手権優勝 武南高校



平成22年(2010) 総体3位 西武台高校



平成24年(2012) 総体準優勝 武南高校



平成25年(2013) 総体3位 正智深谷高校



平成28年(2016) 総体3位 昌平高校



2016年度 理事会

結びに代えて

今回は年末のご多忙にも関わらず、埼玉県サッカー協会のために駆け付けていただき、誠にありがとうございました。多くの諸先輩、仲間にご集まっていただき、このような盛大な会を開催できたことに改めて感謝致します。

埼玉サッカーの現状について、物足りなく思っている方が多いのは承知しておりますが、私は浦和レッズ、大宮アルディージャを筆頭の一つひとつを見ていくと「なかなかよくやっているじゃないか」と思うのです。その一つひとつが皆さんのがんばりの成果だと思いますし、これからも続けて行ってほしいと願っています。

ただ、埼玉県サッカー協会としては皆さんのがんばりに応えるためにも、よりよく進歩していかなければならないと思っています。引き続き、よろしく願い申し上げます。

公益財団法人 埼玉県サッカー協会 専務理事 坂庭 泉